

# ふるさと探訪

## 第82回 大明神川トンネル



砂礫されきが堆積し川底が周囲よりも高く形成される天井川。JR予讃線が川底を通過している大明神川は、その典型的な地形を示しています。

壬生川・三芳間の鉄道敷設工事は、当時の鉄道省が19



大明神川の土手に見える開口部が河床トンネルの証拠です



21（大正10）年に着工しましたが、大明神川トンネル（全長65・53メートル）の築造が難工事であったため、伊予三芳駅の営業開始までに2年もの時間を要しています。その工事は、川の一方を水路として残し、他方を土手から開削するオープンカット（露天掘り）工法が用いられたそうです。日本最初の河床トンネルは、1871（明治4）年に建設された神戸市の東海道本線・石屋川トンネルでしたが、線路の高架化のため既に埋め戻されており、鉄道用で現存するものは極めて少数です。大明神川トンネルは、鉄道フア

ンのみならず土木史的にも貴重な存在なのです。

今では今治小松自動車道の高架がすぐ上流を走っており、建設時には想像もできない景色の変わりように、トンネルも驚いているかも知れません。



真つすぐに伸びてきた線路が、足元で消えるのは不思議な感覚です

